

看護職による『妊産期ケア』で、

妊婦さんの笑顔を増やしたい！

平成21年度 採択事業

妊産婦を“見守り続けるケア”を提供

「幸せなはずの妊婦さんが笑っていない。そう気付いたことが妊産期支援の必要性を感じたきっかけでした」。そう語るのは有限会社キュアリンクケアの代表、谷口知子さん。元看護師である谷口さんは、12年にわたる病院勤務を通して、出産期に不安や悩みを抱え、精神的に不安定になる妊産婦を多数見てきました。

少子化や核家族化、妊婦の高年齢化など、妊産婦を取り巻く状況が多様化するなかで、巷にあふれる「情報」が不安の材料となって、妊産婦の笑顔を奪っているのではないかと考えた谷口さんは「妊産期の不安を解きほぐすための、身体と心のコーディネーターが必要」との思いをもつようになったといいます。そして、それをやるのは医療の知識をもった看護スタッフが適任と考え、自分で事業を起こすことを決意。平成17（2005）年、看護職による妊産期支援サービスを提供する「有限会社キュアリンクケア」を設立しました。

業務内容は、看護師、助産師、保健師など“看護職”といわれるスタッフが、産前産後1年にわたって妊産婦を定期訪問し、医療・メンタル両面からサポートするというもの。妊産婦の不安や孤独を和らげる「見守り続けるケア」の提供です。妊産婦だけでなく、パートナーの気持ちにまで寄り添い、その夫婦に適した出産や育児ができるよう支援します。「妊娠、出産、子育てというのは家族形成スタートの大切な時期。10年後、20年後の夫婦関係にまで影響を及ぼすといわれています。つまりこの時期の支援というのは、“人生一貫支援”といえるかもしれませんね」と語る谷口さん。



記念に贈呈する「小さな写真集」

看護職に向けた講座で事業を展開

谷口さんは看護師として病院勤務を続けながら、大学、大学院で産業社会学と応用人間科学を学んだという経歴の持ち主。それは「人をケアするには看護学だけでは足りない。多様なニーズに対応していくには、さまざまな視点から

ケアを学ぶ必要がある」という思いを持っていたからです。

支援サービスを開始した谷口さんは、妊産婦をケアするためには、これまでとは異なる知識が必要であることに気がつきます。「妊産婦さんをケアするには、メンタルを含めた総合的な知識や知恵が必要です。例えば、家族学や心理学、危機管理、不幸な事態への対応といったものですが、これは既存の看護職が求められる知識とは質的に異なるものです」。それに着目した谷口さんは、妊産期支援に必要な知識を一つのプログラムにまとめて、同社の事業として「看護職向け講座」を開くことに。



2009年看護職向け講座のリーフレット

枠組みを超えた多彩なプログラム構成

谷口さんは、妊産期支援というテーマに対し「分野の枠を超えているんな視点で学べる」ことに重点を置いてプログラムを構成。産科医、心療内科医、小児科医、整体師、家族心理臨床家といった各分野の専門家を講師に招聘し、3ヶ月で全5講座が受講できるという「リレー講座」のスタイルを採用しました。

そして、子育て支援に役立つ事業を支援してくれるファンด์があると知って応募し、助成金はWebサイトの構築やリーフレットの作成、講師の謝金などに活用しました。さまざまな専門家の話が聴けることが一目で伝わるよう、講師全員の顔写真を入れたリーフレットを作成。関西エリアの病院や看護専門学校などを中心に配付しました。

平成21（2009）年10月から3ヶ月にわたり「現場に寄り添うことから始まるケア」と題した第一回講座を開催。妊産期ケアを総合的に学べる講座として注目が集まり、関西エリアを中心に、岐阜や愛知からも受講者が集まりました。当初、想定していた受講者は、現在働いていない潜在看護職が中心でしたが、実際の受講者は、ほとんどが現役の看護職従事者。なかには総看護師長もおられたといいます。プログラムの中で特に反響が大きかったのが、現役助産師による「死産ケア」に関する講演。周産期医療の現

場では避けて通れないテーマでありながら、取り上げられる機会がなかったので「こういう話が聴きたかった」という声が多数寄せられ、確かな手応えを感じたといいます。平成22（2010）年に開かれた第2回講座では、この死産ケアをメインのテーマに加え、助産師の講座のほか、死産を体験した父親の立場からの講演もプログラムに組み込みました。



体感コミュニケーションセミナーの様子

目標は京町家を活かした産後ケア院

平成21（2009）年には、経済産業省の「日本を代表するソーシャルビジネス55選」に選定され、注目を集めるキュアリンクケア。個人を対象とした妊産婦支援サービスを進める一方で、法人向けのサービスも展開。地元企業にアプローチし、福利厚生事業として妊産期支援の企画・提案や、社員向けセミナーを請け負うなど、企業、行政、学校などの法人に向けた事業にも取り組んでいます。平成22（2010）年度には、企業の次世代育成支援（特に男性支援）に貢献する研修アンテナプロジェクトでファンด์に応募し、2年連続で採択されました。

将来は、韓国で普及している産後養生院をヒントに、京町家を活用して、常設の産後ケア院の設立を目指しているといいます。

Cure（治療）とCare（看護）が連動しているのが看護職の理想——。谷口さんの展開する事業の底辺に流れる思いが『キュアリンクケア』という社名からも伺えました。

事業概要

有限会社 キュアリンクケア

<http://culica.jp/>

代表：谷口知子

業種：ヒューマン・サービス業（看護職による妊産期支援サービス）

創業：平成17（2005）年 設立：平成17（2005）年

住所：〒600-8813

京都市下京区中堂寺南町 134 京都高度技術研究所 2F

TEL：075-315-3236 FAX：075-315-3236